

安全願い白バイ出動 秋の交通安全運動出動式

「秋の交通安全県民総ぐるみ運動に伴う出動式」(佐沼警察署、登米警察署共催)が9月21日、登米市役所南方庁舎敷地内で実施されました。

当日は、パトカー6台、白バイ10台による出動式と警察署員による交通安全寸劇を披露。高齢者による交通事故防止とオレオレ詐欺への注意を呼び掛けました。天野英克佐沼警察署長は「市内は交差点やスーパーの駐車場での事故が多い傾向にある。事故を増やさないよう交通マナーの徹底などの啓発に努めていきたい。また、住民同士による声掛けなど、皆さんの協力をお願いしたい」と事故防止を呼び掛けました。



等間隔に並びながら出動する白バイの姿に、会場からは拍手が沸き起こりました。

災害時に温泉を提供 被災者の心と体を温める

「災害時における入浴施設の利用に関する協定締結式」は8月31日、市役所迫庁舎で開かれ、市はロト・ヴィーナス(山田直志代表取締役)と災害発生時における入浴施設利用に関する協定を結びました。

ロト・ヴィーナスは、迫町の長沼湖畔に日帰り温泉施設「長沼温泉ヴィーナスの湯」を運営。災害発生時には、指定避難所への避難者などの入浴施設として利用できるようになります。山田代表は「泉質は筋肉や関節の痛み、疲労回復などに効果がある。温泉を登米市の財産として、被災者の身体清潔保持やメンタルケアのため有効活用してほしい」と話しました。

災害時応援協定



災害時、指定避難所に避難をしている被災者は、入浴施設を利用できるようになります。

社会的な視点を学ぶ 科目を超えて課題を探求

佐沼高等学校(狩野秀之校長、生徒697人)の「地域課題講話」は9月29日、同校体育館で開かれ、2年生の生徒235人が受講しました。

地域課題講話は、地域が抱える課題を認識し、現状を理解することにより、生徒自身の問題意識の醸成や将来の夢の具体化につなげることを目指し、市役所職員が講師となり実施。農業、商業、観光、教育、医療などから、希望する分野の講話を選び、聴講しました。生徒からは「就職後の資格取得について」、「後輩のほめ方」などの疑問や「医療と介護職の連携について」など専門的な質問が挙げられました。



講話は、分野ごと2会場に分かれて実施。生徒は自身の将来を考える機会となり、熱心に耳を傾けていました。

鉄道と共に歩む地域 新田駅題材の作品を表彰

「新田駅のある風景写真展表彰式」(新田あるもの探しの会、新田駅を考える会共催)が9月12日、登米市伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターで行われました。

新田駅は、JR東日本東北本線最古の駅舎として今年で開業126年を迎えます。表彰式は、8～9月に開かれた写真展に展示した作品の中から登米市出身の鉄道写真家武川健太さんが選んだ3作品が表彰されました。新田駅を考える会の菅原正照会長は「皆さんの思い出がいっぱい詰まった写真が多く集まり、写真展を昔を思い出すきっかけにし、今後も新田駅を地域の宝として在り方を考えていきたい」と話しました。



最優秀賞に当たる登米市長賞は迫町の大坂英通さんが出展した「吹雪の北斗星通過」が受賞しました。

マイタケ栽培が評価 育成功労賞の受賞を報告

「令和2年度緑の少年団育成功労賞」を受賞した、米川小学校みどりの少年団育成会の芳賀和博会長と団長の芳賀桜空さん、副団長の首藤諒平くんが10月8日、市役所迫庁舎を訪れ、熊谷盛廣市長へ受賞の報告をしました。

育成功労賞は、緑の少年団活動の充実、発展のため、優れた活動をする団体や個人を表彰するもので、地場産品のマイタケ栽培を取り入れた活動が、地域振興に貢献していると評価されました。芳賀会長は「長年続く、緑の少年団活動が評価され大変喜ばしい。今後も、子どもたちが緑と親しみ、古里を知る活動を推進していきたい」と決意を新たにしました。



芳賀団長からマイタケの栽培成果報告を受けた後、「米川の自慢の森で育ったマイタケです」と熊谷市長へ手渡されました。

きらりと光る武士魂 登米懐古館で刀剣企画展

企画展「収蔵資料展Part2 きらりきらり～武士の魂～」が、7月11日から11月8日まで登米懐古館で開かれています。

企画展は、備州長船恒弘や仙台藩三代藩主伊達綱宗が隠居後に作刀した慰打ちなど、市指定有形文化財の刀剣6点を含め、仙台伊達家と登米伊達家に縁のある刀剣や刀装具を展示。来館した熊野勝文さん(77)＝仙台市青葉区＝は「刀剣は実用性を兼ねた美術品。最先端ではなく、昔の物から学ぶことや気付くことがあります。たまにはこういう空間で歴史を感じる時間も必要ですね」と刀剣が歩んだ歴史に思いをはせていました。



企画展では登米懐古館が収蔵する太刀、刀、脇指、刀装具などを平安から南北朝、江戸へと時代を追って展示しています。